

じんだい

第23号

2011.1.14

発行：医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院

調布市深大寺北町4-17-1 ☎042-482-9151
URL www.kichijoji-hospital.com



基本理念

患者様やご家族の側に立った医療
患者様の社会復帰を目指す医療
全職員相互の力を発揮できる医療



晩秋の深大寺

contents

新年のご挨拶 院長	1
新年のご挨拶 事務長	3
新年のご挨拶 看護部長	4
ファミリーサポートセミナーについて	5
ーケアの現場からー 「愛すべき仲間と出会えて」.....	6
職場紹介（外来）.....	7
新人コーナー	8
永年勤続優良者及び永年勤続優良職員の表彰について	9
人命救助による感謝状の授与について	9
東八道路	10
外来担当表／当院略図／編集後記	11

明けましておめでとうございます。

院長 塚本 一

昨年は民主党政権のもと国際的問題、特に外交問題で大きく揺れた一年でした。

政治と金、官僚主導の政治、自民党の二世議員問題、政治と企業の癒着など戦後続いてきた自民党政権に国民がNOを出し、先が見えず閉塞感が強まる一方の日本を変えてほしいという気持ちで、国民が民主党に政治を託したのだと思います。

「今までの自民党のやり方を変え国民主体の政治にしてほしい」という国民の声を受けスタートした民主党政権ですが、蓋を開けてみると鳩山元首相が政治家とは思えない言葉の軽さで日本の外交をどんどん悪い方へ導きました。普天間基地問題ではアメリカのオバマ大統領に「私を信じて」と口約束をし、沖縄県民には「基地は県外移設する」と話すなど日米関係をメチャクチャにしまいました。沖縄の基地問題は自民党政権時代からの問題であり、解決の糸口を見つけるため日米相互が年月をかけて苦労しながら積み上げてきた話です。それを鳩山元首相の軽率な一言で全てを崩してしまいました。

私はこのままでは安心した暮らしが脅かされる、という思いで日本の医療問題や社会保障の危機についていろいろ皆様に訴えてきましたが、外交問題はそれ以上に日本国民の安全や安心した生活に関わる大問題です。ひとたび事が起これば健康な人も、病気の人も全ての国民が安全を奪われてしまうのが外交問題です。戦後の日本は自衛隊を継子扱いして、自分の国を自分達で守るということを真剣に考えてきませんでした。

現在の日本の防衛はアメリカ抜きでは成り立ちません。確かに沖縄県民のみに負担を押し付けるのは間違っていますが、まず日本の国を守るためにはどうするのか、という一番大事な話し合いを国民と一緒に進めていく事が大切だと思います。しかしそれには時間がかかり、日本独特の力で日本を守れるよう防衛力をつけていくにも時間がかかります。まずは、日米同盟を中心に近隣諸国との関係を考えていく必要があります。鳩山元首相は短期間で退陣しましたが、日米同盟のヒビは修復されていません。

そのような不安定な日本にGDP比で毎年2ケタ以上の軍事力を増強している隣国中国が揺さぶりをかけてきました。尖閣諸島沖で中国漁船が日本の巡視艇にわざとぶつけてきた問題です。今までも日本の領海を侵犯して他国籍の漁船が保護されることはしばしばあっても、相手側からぶつけてくるような事はなかったそうです。今回の中国漁船は漁業をするために日本の領海を侵犯したのではなく、尖閣諸島は中国の領土だという事を主張するためにわざと仕掛けてきたと思われます。その後の日本政府の対応はひどいものでした。中国政府の圧力に屈して成すすべもなく、外交上の完敗となってしまいました。以前中国はハワイから東側はアメリカが支配し、ハワイより西は中国が支配すればいいのではないかと言い放ち、沖縄に関しても日本が不法に支配しているという主張を持っています。日本は島国であり、周りは海に囲まれて



います。自給自足率も低く、石油や食料も海外からの輸入に頼っています。シーレーンを全て中国に支配されてしまうと思うとゾーッとします。

圧力をかけてくる国は中国だけではなくありません。ロシアの大統領も戦後初めて北方領土にわざわざ出向き、これらの島はロシアの領土であると主張し、日本政府を揺さぶっています。また、北朝鮮は韓国の哨戒艇を魚雷攻撃で撃沈したり、11月23日は突然韓国に向けて砲撃を加え民間人の死者も出ました。民間人の死者は朝鮮戦争以来とのことです。

菅首相にかわっても外交上のゴタゴタが続く、今後の日本がどのようなになってしまうのか心配です。まずは日米同盟をもう一度強い絆のものとして、自分の国は自分達で守れる国になってほしいと思います。

同じことが病院にも言えるのではないのでしょうか。内外情勢が不安定なときだからこそ自分

達の病院は自分達で守るという気構えが必要です。

当院は統合失調症の専門病院として治療の質を上げるため常勤の精神科医師を増やし、昨年より外来の新患管理医、急性期治療病棟の管理医を設置しました。また、一昨年から開始した『やりがいプロジェクト』において都内のクリニック、病院、保健所等の医療福祉関連施設においてどのようなニーズがあるのか調査し、院内での医療体制の見直しや当院職員に対する啓発活動も併せて行っています。

「統合失調症に日本一強い病院」「職員にとって働きがいのある病院」「病床利用率98%、年間入院患者数800人、新規入院患者の統合失調症の割合80%」という目標をかかげ、今後も急性期から社会復帰、その後の在宅生活も含めて支援できる病院を目指しておりますので宜しくお願いいたします。



新年のご挨拶

事務長 大須賀 忠雄

新年あけましておめでとうございます。

昨年は皆さんにとってどんな1年間でしたか。1年が経つのは早いものだといつも思っていますが、はて、この1年間何があったのだろうと思い返してみると、さっとは頭に浮かんでこない、これはまずい、と思いインターネットで検索してみる、今は便利になったと思う反面、自分の頭の中に残そうという努力がかけられているのか、記憶力が欠如しだしているのか、ふと不安に思ってしまいます。

バンクーバーで開催された冬季オリンピックでは上村愛子選手の4位、フィギヤースケートの浅田真央選手の銀メダル、南アフリカで開催されたサッカーワールドカップでは強豪国が予選で敗退していくなかでの日本の活躍、PKでの駒野選手のキック、メインとなる言葉が出てくると頭の片隅に残っていた記憶が思い起こされ、少しホッとします。

もうひとつ、今年の夏は本当に暑い夏でした。猛暑が続きこのまま秋、冬がこないのではないかと心配したほどでした。地球の温暖化のせいでしょうか。「このままでは地球はどうなってしまうのだろうか、このままではいけない」と思っていました、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」のことわざではないですが、秋がきて、冬がくると……。

そして思い起こしたくないのが政治の世界です。一昨年、自民党から民主党に政権が変わり大きな期待を寄せました。しかし、鳩山首相は

沖縄の基地問題を解決するどころか混迷させる一方で6月には退陣し、菅首相が誕生しました。誕生後の7月に行われた参院選挙では敗れ、ねじれ国会となり、政局の不安定さに拍車がかかりました。テレビ放送を見ていると、いろいろな意味での外国からの圧力にさらされているにも関わらずなんら手を打てないでいます。党内のいざこざに振り回されず、強い政治力を発揮していただきたいものです。



当院はというと、昨年2月に精神科医療の流れ、経営の安定化のためにA4病棟を精神科急性期治療病棟にしました。しかし、まだまだ運営上の問題などがあり、スムーズな軌道に乗っているとは言い難いところがあります。また、ビジョン達成プロジェクトを立ち上げ昨年は2年目の年でした。歩みは一步一步かもしれませんが、前進していると思われれます。

今年は、ビジョン達成に向けた動きを進めるとともに、病院機能評価更新の年でもあります。それ以上に来年平成24年は診療報酬改定の年で、介護保険等の改定とも重なり、大きな変化が予想されています。その意味で、今年は精神科医療がどのような方向に進むのか、それによって当院がどのような舵をとらなければいけないのかが迫られる年になるのではないかと考えられます。本年もよろしく願いいたします。

更なる飛躍の年に

看護部長 伊藤 久代

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

昨年は当院のビジョン『高い専門性を備えて急性期から社会復帰まで幅広く患者様の治療を行う統合失調症に強い病院』『職員にとって働きがいのある病院』に向けて「やりがいプロジェクト」が本格的に動き始めた1年でした。目標値の中で、入院数、統合失調症の割合は順調に増加しています。しかし、現場では、患者の入退院件数や転棟件数の増加に伴い、特に後半は多忙を極めたと思います。職員一人一人の頑張りに支えられた1年であったと感謝しています。今後のプロジェクトを進めていく上では、職員のやりがいに繋がっていくように、現状の業務との整合性を考慮しながら、また、職員の意見を取り入れ、職員と一緒に進めていくことが大事であると思っています。

昨年看護部では、患者様の視点にたって看護ケアをするために患者参加の看護計画の立案と実践の推進、看護の専門性が医療チームの中で発揮できる、倫理感に基づいた看護実践、生き活きと働ける職場作りを年度目標にあげ、取り組んできました。中間評価では各看護単位とも職場状況や患者の状況にあわせ、工夫しながら取り組み、成果が見られています。昨年4月から、精神科認定看護師（精神科退院調整領域）が専任で活動しています。病棟受持ち看護師や他職種チームと協働してカンファレンスから退院支援・在宅支援まで継続して関わることで地域移行への取り組みが強化されましたが、地域との連携や地域での支援について課題も明確になりました。国の施策としても退院促進がさらに推進されてくる事を考えると退院調整や退院後の支援は重要となり、今後の活動が期待されます。また、今年度から看護学生へ実

習指導評価アンケートを実施しています。アンケートでは学生からとても良い評価を得ています。学生は的確な指導や看護をしている指導者や看護師から対象との関り方を学び、多くの学生が看護に魅力を感じ、こんな看護師になりたいと学生たちの目標にもなっています。効果的に臨地実習の場が提供できおり、看護師確保にもつながっていくとうれしく思っています。

看護部では引き続き今年も看護職員の安定的な確保と看護の質向上に取り組んでいきます。日常的な看護技術の向上、根拠のある看護計画と実践、さらに医療チームの中で、看護の役割を明確にし、根拠のある説明ができるよう専門性を身につけ実践できるようにしていきたいと思います。厚生労働省では「チーム医療」の推進に関する検討会が開催され、報告書がまとめられました。今まで吉祥寺病院は医療スタッフや事務職員それぞれが専門性と役割を発揮し、業務を分担し、互いに連携・協働しながら患者の状況に対応したチーム医療が進めてきました。これは当院の大きな強みでもあります。さらに、医療チームが力を発揮できるような職種を超えた検討も必要かと思っています。

職員がやりがいを感じられるのは、患者様に満足していただける看護（医療）提供が出来た時ではないでしょうか。今年は病院機能評価受審もあります。ビジョン達成のためのプロジェクトの活動とも連携させ、患者様に喜んでもらえ、その看護活動を通して職員が成長できるようサポートできればと考えています。



ファミリーサポートセミナーについて

ファミリーサポートセミナー担当看護師（A2病棟） 佐々木 勉

前々回にファミリーサポートセミナーについては、その概要をスタッフの若林がすでに紹介させていただきました。今回は少し詳しく私自身の考えを加え、さらに皆さんに知って頂きたい事を書いていきたいと思えます。

まずファミリーサポートに参加していただきたいご家族の推薦には病棟スタッフ（主に受持ち看護師）の協力が不可欠となります。「○○さんのご家族をファミリーサポートに推薦したいんだけど…」こんなやり取りを耳にしたことはありませんか？推薦してくれたスタッフが主治医や精神保健福祉士、他スタッフにも働きかけ、ぜひ参加していただきたいという意見があれば、いよいよ参加手続きということになります。ただし、参加していただけるのは、

- ① 当院をご利用いただいている方のご家族
- ② 「統合失調症」の患者様（それ以外の診断の場合もご相談の上、参加可能）
- ③ 月1回（第1土曜の午後）のセッションに、原則として毎回参加できること（ご家族の住所、体調等を考慮）

となりますが、さらに、ぜひぜひご参加いただきたいご家族は…

- ① 患者様との距離がとりにくいなと感じているご家族
- ② 治療に関してもっと知りたいと感じているご家族
- ③ 患者様への対応で悩んでいるご家族
- ④ 病気がよくわからない、もっと知りたいと感じているご家族

となります。

ファミリーサポートに参加していて私が思うことは、患者様のご家族は私達が想像するより遥かに様々な悩みや問題を抱えているということです。上記に挙げた選考基準は、実はご家族が外界へと発しているSOSなのかも知れません。ご家族のなかには、このSOSを発していないかに見える方たちもいらっしゃいます。しかし、本当に病気のことを気につけないご家族は決していません。別のカタチで緊急信号を発しているか、私達が単に見落としているだけかも知れません。患者様と関わっている以上、主にキーパーソンであるそのご家族の思いを受け止めていくことは当然であり、それを踏まえて良きアドバイザーとなることは、私達医療者の一つの使命とも言えると思えます。

参加手続きの時、私達はご家族にセミナーの目的をこう伝えます。

「病気・治療への理解を深め、患者様・家族間の様々な問題への対処の仕方を学び、退院後に利用出来る地域・行政の支援についての知識を深めていきます。それを通して、ご家族がより前向きに希望をもって、病気に立ち向かっていけるようになることが私達の願いです。ぜひ一緒に参加して頂きたいと思えます」

患者様と同じ様にご家族へも寄り添う…容易ではないかも知れませんが、これからも私達は努力し続けていかなければなりません。

－ケアの現場から－

愛すべき仲間と出会えて

A2病棟看護師 高取 慎也

4月から現在の病棟に異動となり、すぐに目についたのは15歳の青年だった。15歳の青年がここに入院していることに驚きを感じたことを今でも覚えている。15歳なんて、思春期・青春の真ただ中。しかも自分で衣類やおやつさえも管理状態だなんて…正直、出会った時は彼の境遇に「かわいそう」と思ったが、それよりも言葉での会話が出来ない、自分の言葉で想いを伝えられるのに伝える事ができない彼の閉ざした心の扉に悲しさを感じるようになった。

「おはよう」「・・・」「昨日は寝れた？」
「・・・」「おいしい?」「・・・」

日々この調子で一方通行の繰り返し。だが、この病棟のスタッフは諦めず声かけを止めることをしない。返事が返ってこなくても、何の反応が無くても、オープンクエスチョンで言葉を投げかけ続ける。彼への病棟スタッフの関わりを見て、「この病棟は良い病棟やわ。患者を待つ看護をやっとるわ。」と感心した。

いつしか自分は彼の声が聞きたくて、聞きたくてたまらなくなっていた。そんなある日、おやつ時間になり、他の患者は自分のおやつをもらってホールで食べている。彼はナースステーション内にある自分のおやつを何も言わず、ずっと見ていた。どうしたいのか？何が欲しい

のか？を尋ねるが何も返ってこない。そこですぐに渡してもいいが、それでは何も生まれない。何も変わらない。自分も待ってみた。ここのスタッフから教わった待つ看護を試してみた。声をかけ続け、待ってみた。



「・・・お・や・つ・ちょ・う・だ・い・・・」

意外に低い声だった。

「おやつちょうだい」このたった1言を言うまでに、そして聞くためにどれほどの時間が経っただろう、どれだけの声をかけただろう。あるスタッフは感動して涙を流していた。

この一言は、この病棟スタッフの患者に対する「愛」が生んだ言葉やと思う。そんなここのスタッフが大好きだ。これからも、この病棟で出会った素晴らしい仲間と共に切磋琢磨し、日々完全燃焼して愛を叫んでいきたい。

そして患者の心の叫びを聞いていき、その声と真剣に向き合っていきたい。

そんな看護師に私はなりたい。

職場紹介 第4回

外 来

外来看護師長 富山 静子

皆様あけましておめでとうございます。

4回目となる職場紹介は外来です。吉祥寺病院の患者様なら必ず1度は来られてらっしゃると思います。新棟1階にある診察室は6室の診察ブースと看護師長と2名の看護スタッフ、計3名で運営しています。小さな世帯ながら1つの看護単位です。仕事の内容は外来受診をされる患者様の対応、新患の受診案内、外来患者様からの電話相談など多岐にわたります。平成22年4月1日から再来患者様は午前だけの診察となり、混雑が午前に集中しご迷惑をお掛けして

います。診察の待ち時間調査を行い、今後の対応の参考にしたいと考えています。

また訪問看護を病棟看護師や作業療法士、精神保健福祉士の他職種の職員と協力しながら実施しています。患者様の「生活の場」を拝見し、生活の苦労や、頑張りを直接目にしています。このことは自身の勉強や、退院される患者様のアドバイスのヒントになります。

本年も、皆様のご指導のもとに「頼れる外来」を目指します。宜しくお願い致します。



新 人 コ ー ナ ー

精神科での看護について

B3 病棟看護師 FA

吉祥寺病院に入職して早半年が経ちました。以前は一般の内科で勤務していました。内科勤務では点滴交換や処置、入退院など時間に追われ患者さんと満足に話せる時間がありませんでした。技量の問題もありましたが、患者さんとも関わらず一日を終える業務にとても疑問を抱えていました。学生時代感じた精神科での面白さや、先輩看護師の「精神科は看護の集大成だ」という言葉に精神科での人と人との関わりで看護とは何かを学んでみようと思ったのが精神科に来たきっかけでした。

こうして精神科で働くようになって思うのは、やはり「対応」がとても難しいということ

です。この患者さんの病態やその場の状況に応じて今どう言った言葉を伝えればいいのか、一瞬のうちに考えなければなりません。自分の話す言葉一つから看護が始まっているのです。そういった場面ではとても悩みますが、先輩方の対応の仕方を教わりながら一人ひとりの患者さんと看護師として向き合えるよう日々学んでおります。まだまだ未熟ですが今後も初心を忘れず、自分なりの看護観が持てるよう頑張っていきたいと思います。



吉祥寺病院に入職して

A3 病棟看護師 KK

平成22年4月にA3病棟に入職を致しました。吉祥寺病院で働かせていただく以前は、透析、献血ルームと8年間働いていましたが、病院で1から働きたいとの思いもあり病院を探していました。献血の仕事の際、1日に1人は自傷行為の傷跡をもつ方を見ることがあり、精神科の分野は傍目より身近に多々ある事柄と感じていました。また知人が精神疾患の診断をされたこともあり興味を持ち精神科の病院を希望していました。

病棟経験が全く無く、入職当時は、様々なこと対し不安なことばかりで、記録物から患者様に話しかけられるひとことひとことの返事だけでも不安と緊張の連続でした。入職し半年以上

過ぎましたが、職場の先輩方に暖かいご指導を頂きながら今日まで勤めることができ、少しずつ仕事を行えるようになってきました。

入職半年で、まだまだ未熟ですが、患者様の症状が改善し退院する姿を見ると、患者様にかかわる事が出来て良かったと思います。日々勉強で試行錯誤の毎日ですが、自分に自信が付き、看護師として成長し、いつの日かバリバリ働く先輩方の仲間入りし、個性を出していける精神科看護師になっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



永年勤続優良者及び永年勤続優良職員の表彰について

日本精神科病院協会及び東京精神科病院協会から永年勤続優良者、永年勤続優良職員表彰を受けました。

平成22年11月9日 新宿京王プラザホテルにて日本精神科病院協会から30年以上永年勤

続優良者として塚本百合子会長が表彰され、東京精神科病院協会から10年以上永年勤続優良職員として守田亨看護部主任と金澤淳一事務員が表彰されました。



人命救助による感謝状の授与について

東京消防庁より平成22年11月17日当院会議室にて千田貴子看護師が人命救助の貢献に対

する感謝の言葉と感謝状が授与されました。





年来る如何な年ぞと頭上ぐ

〔天野莫秋子〕

巷間では、内政・外交・経済の諸問題は、なかなか複雑で好転する兆しを見せていない。それでも時は過ぎ、人々は忙しく動き回っている。新たな年のはじめに、今年はどうな年になるだろうかと考えながら、新春にこの俳句を思い出して、冒頭に紹介してみた。今年も、重苦しい空気が取り払われて、爽やかな一年になってもらいたいと願っている。▼ところで、爽やかですっきりしていることから名前がつけられた樹木があるという。それは『さわらか』な木から、榎（さわら）と呼ばれるようになった木である。榎は、檜科に属する樹木で、葉の先がとがっている。それに比べ榎は葉がまるい。樹皮

は剥げやすく、高さは三十米にもなるという。湿気に強く、風呂桶などの用材になるといふ。この榎の木が以前、私どもの病院にも十本ほど植えられていた。▼場所は、旧A棟の北側の佐川急便との間。植えられたのは、昭和四十年に旧A棟が建てられた頃。先人は、この病院が『さわらか』な木のようにあつてほしいと願って、植えたのであろうか。何度か芯を止め、枝を掃って手入れしてみたが、新A棟の建築のとき、この榎の木はすべて切り倒された。敷地の境界にあり、建物を緑の壁で覆うような、かなり高くて太いものであった。▼切り倒された太い木は、ほかに使うことも考え付かなかつたこともあるが、長い間親しまれてきたこの木を、そのまま全部を捨ててしまうことも出来ず、何かの記念物になるだろうか、と、太さ三十五糎余りのこの木を、皮のついたまま、長さ一米五十糎ほどに伐つてもらい保管することにした。保管するとは聞こえがいいが、リハ・センターの外階段の下で約八年間も放置されてい

たのが真実であった。▼昨年も暮れになつて、何かに使えないかと思ひ、腐食したところを切り取り、樹皮を剥いで、三つに切つて、はじめは、椅子にでもしようと考え、裏庭の芝生の脇に置いてみた。ところが、ひび割れがひどく、外に置いておくには雨水で、すぐに腐食してしまふ。それではと考えたのが、鉢植えの花・植栽を置く台であった。▼設備管理の方が、ペーパーをかけたたり、ラッカーを噴霧したり、ラッカーの色を変えたりと工夫を凝らして三個を作り上げてくれた。とても自慢できるようなものではないが、とりあえず、はじめの一台を理事長室の前の廊下においてみた。病院で育つた樹木で作つたものと、長く役立ててもらいたいと考えている。(游衍子)



外 来 担 当 表

	月	火	水	木	金	土
新 患	土井(第1・3・5週) 田澤(第2・4週)	市川	森	山室(第1・3・5週) 岡田(第2・4週)	西岡	袖山
診察室(1)	原藤／金井	院長	原藤／渡辺	小木	原藤／金井	原藤／水落
診察室(2)	田澤	西岡	西岡／渡辺	田澤	西岡	西岡／袖山
診察室(3)	市川	岡田／市川	森	市川	市川	亀山
診察室(4)	森	土井	市川	袖山／岡田	森	森
診察室(5)	土井	山室	山室	山室	袖山／岡田／大橋	山室
診察室(6)	新患担当医師	新患担当医師	新患担当医師	新患担当医師	新患担当医師	新患担当医師

受付時間 新患 月－土（午前9時15分～11時／午後1時～3時）
 再診 月－土（午前9時15分～11時）



〈編集後記〉
 今年はアナログ放送が終わり地デジへ変わりますが、私は未だにアナログ放送でTVを観ています。時折友人宅等で地デジ放送を観ると画像の鮮明度に驚きます。時代の流れの早さを痛感します。(T)

あけましておめでとうございます。皆様いかがお過ごしでしょうか？昨年、禁煙を始めてから増え続ける体重を、今年こそは減量したいと考えています。まずは規則正しい生活をと考え、ざっと生活を見直してみると、様々な無駄なものに囲まれているなど実感しました。この体にたくわえた脂肪もしかり、無駄なものをそぎ落とし、出来るだけシンプルに生活を送ればと思います。(H)